

大飯原発幹部に業者推薦

高浜町元助役商品券渡す

関西電力役員らが高浜町の元助役森山栄治氏（故人）から多額の金品を受領していた問題で、森山氏が一九九〇年代に地元ではない大飯原発（おおい町）の幹部に特定業者を推薦していたことが十日、分かった。元幹部が共同通信の取材に明らかにした。断ると激高されたという。

森山氏が助役を退いた八七年以降の早い段階で、地元の高浜原発だけでなく大飯原発でも工事に関わろうと関電関係者に接触を重ねていた可能性がある。関電の第三者委員会がこれまで対象を広げて調べるか注目される。一方、関電は二十

二人いた常務執行役員以上の幹部のうち原子力部門を中心に六人もの大量退陣で人材と技術の維持に悪影響が出そつた。

大飯原発の元幹部によると、九〇年代半ば、休日を通りかかっていた大阪府内の自宅に森山氏が訪ねてきた。その際、大飯原発の要職への就任祝いとして、十

二十万円ほどの商品券を持参していた。元幹部は先輩社員から「森山氏もし金品を持って来たなら、お返しをすればいい」と引き継ぎを受けており、いったんは受け取った。

品券の額よりも高価なネックレスを購入し、京都市内の森山氏の住居に向いて渡した。商品券の受領は会社

に報告しなかった。

「すべて返せばなかったこととできる」と考え、商

その後、元幹部を含む大飯原発関係者が森山氏と会食した際、原発の定期検査工事に参加する業者の推薦をほめかされた。元幹部が「業者はたくさんいる」と言う。「俺がいるんやぞ。俺が一番大事な地元企業（のようなもの）や」と怒ったという。

森山氏に業者選定の方法や基準を説明したが理解は得られず、「子どもがかわ

いいだろう」「自分を大事にしないといかん」と高圧的な態度で迫ってきた。元幹部が推薦業者の参入のために動いたことはなかった。

金品受領問題では、関電の原発事業が強い逆風にさらされている。原発マネーが還流したとの疑惑に地元

の反発も強く、原発再稼働に影響が出る可能性もある。

共同通信の取材に稲田氏の事務所は「コメントする立場にない」としている。購入した企業・団体はいずれも購入は政治献金に当たらないとした上で、電事連の担当者「社会通念上のつきあい」、関電の担当者は「パーティー券は情報収集などの目的で必要に応じて購入している。グループ会社もそれぞれの判断で購入した」としている。